

首都機能移転県民フォーラム（鹿沼地区）開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・対象地域鹿沼地区（鹿沼市、西方町、粟野町）
- ・平成9年5月25日（日）午後1時30分～午後4時20分
- ・鹿沼市「ハッピー会館」

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等の代表）8名
- ・主催者側（県議会議員、事務局）12名
- ・県議会議員（地元選出）4名
- ・随行、市町村職員、一般等150名

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 東京への一極集中を是正し、日本全体の均衡ある経済・社会構造を作るためにも首都機能の一部を地方へ分散すべきである。
政治と経済の中枢を分離することは、財政的リストラの一環であり、防災対策になるとも考える。
- 那須地区に新しい町ができることは実感はあまり湧いてこないが、間接的な経済的波及効果が望めるので、鹿沼地区においても新しい町づくりに良い影響あるものと考えている。
- 栃木県は東北地方への通過県であり、著名な人物や文化が育ちにくい土地であると考えているが、日本の中枢機能が来ることで幅広い立派な考えを持つ人材が育成されるものと期待する。
- 今の日本の現況では改革の行動を起こさなければならないと多くの人々が考えていると思う。改革は慎重に行うべきであるが、危機管理・政治経済・人々の意識・教育問題といった面で、改革を行わないと東京がどうこうというより、日本が駄目になってしまうと感じている。
- 経済企画庁の国民指標において、本県は医療・福祉の分野でワーストに近いと知って、がっかりしている。本県は、経済面では伸びているが、生活を支える基盤が弱い。首都機能が来ることにより、医療・福祉の分野でハード・ソフト両面における充実と優秀な人材が移住してくることに期待している。
- 緑の中の都市づくりが一つのテーマになっていると思うが、森林は、木材の生産はもちろんのこと、水資源の涵養、空気の浄化、国土の保全、人々の健康増進といった広域的な機能を発揮する。この機能を十分に把握した上で、早い時期に土地利用区分を明確にし、森林に対する強力で適切な行政施策が行われることを前提条件として、都市を囲む緑の中の都市づくりが可能になると考える。

- 課題に関する意見 -

- 西那須野地区に限らず、近隣市町村の発展に対し支援体制づくりを考慮する必要がある。
- 首都機能移転の条件に、那須は適合していると思うが、反面、火山・積雪等の不安材料もいくつかあると思う。
- 今までに問題となった事と同じ轍を繰り返さないよう、国のみならず、住民側からもオンブズマン制度のようなもので監視する方法を作る必要があると考える。
- 塩原や那須の山間部の水が減っていたり、大田原での湧水が減少気味であるなど、水の供給に対する安心感が見えてこない。上下水道や水田排水の完全なリサイクル化などを考える必要がある。今後の

圃場整備等についても水問題には十分配慮すべきであると考えます。

- 土地に対する投機的な買いあさりや乱開発が想定される。このようなことは、首都機能移転に支障を来すだけでなく、農業の正常な発展に大きな阻害要因になる。早急な法的整備が大切だと考える。
- 県民の合意形成なくして事業の成功はないと提言したい。県民全体の合意形成をいち早く取りつけて、県民挙げての誘致運動を展開する必要がある。
- どのような都市になるのか不安であるが、公益的な機能を持った施設が分散すれば、地域づくりの励みになると思う。集中してしまうと、東京都と同じ一極集中問題が起きてしまう。また、ドイツの世界環境宣言都市の指定を受けている町は、木を切らずにビルや建物を建てており、美しい森のなかの都市ですが、その風景は那須野ヶ原と似ている。自然と共生できる新都市づくりをしてほしい。

-要望に関する意見-

- 低成長、少子化、高齢化、人口減少といった社会構造の中で、人口増や経済効果が期待できるプロジェクトなので産業界としても運動の推進を期待している。
- 首都機能移転に伴い、流入してくるサービス産業の内、商業や病院といった部門について、小さな商店や病院が吸収されてしまい存続不能になる心配がある。協力したことによって地元が駄目になってしまわないよう配慮してほしい。
- 東京がそのまま来ると考えると必ずしもうれしくないの、いままでになかった理想の形をイメージし、県民の目にたくさん触れるようにPRして、理解を深めてほしい。
- 全ての人賛成することは不可能であるので、反対の方の意見も十分に伺った上で、理解の接点を持ち問題をクリアーしてもらいたい。
- 土地や水、自然環境については、県民の要望、特に圏域の住民の要望を踏まえ住民と一体となった取り組みをしてほしい。
- 街路樹を植えたり、公園や家庭に樹木を植えたりといった、ただ単に緑が多いまちにするのではなく、人と自然が一体となり生態系が保たれた環境を残したまちづくりのために十分検討を加えてもらいたい。
- そこに住んでいる住民と新しくやって来る住民との交流が常に保たれるようなまちづくりをしてほしい。住民相互が理解し合い、協力し合い、尊敬しあって生きていけるまちづくりを考えてもらいたい。
- 首都機能移転に伴って、農業経営形態の変化が考えられる。基本的には、個々の農民が対応していくことが原則であるが、このような状況下において、なお農業を志向する場合、農地の斡旋や資金・技術面の支援を強化する必要がある。
- 東日本国際空港について、首都機能が移転してくると実現されてしまうとっている人がいる。将来的に、本当に関連がないか不安である。この不安が現実にならないよう県に対して強く望むものである。
- 都市の過密、山村の過疎は東京の一極集中が原因だと思う。バランスの取れた国土づくり、地域づくりが必要である。過疎対策と首都機能移転対策を同時に進めてもらいたい。
- 住民と行政と一緒に考える機会を多く持って、より多くの議論ができるような広報活動、情報提供をしてほしい。また、マスコミは反対意見のみを大きく取り上げるのではなく、賛否両論、公平に取り扱うことが大切だと思う。

-意見交換における主な意見（要旨）-

- 移転予定地が決定したあと、日本の世論が移転に対する支援部隊になってくれるか、反対に回りはしないか懸念を持っている。そのような事も考慮に入れて問題に取り組んでもらいたい。

- パンフレット等がいろいろ出されているので、それを読んでいけば漠然としたことは分かるが、それより具体的に皆さんに理解されるような提案をしていかなければならない。
- 土地政策の問題で県北地域は都市計画の線引きがされていない。先行して議論を進めていかないと皆の理解が得られないのではないかと考える。
- 他県に対して的那須地域の優位性を積極的にPRしていく必要を感じる。
- 代議士の数からいくと、西の方の人達が多くいる。採決になったときには北海道から栃木県までの人数は35%くらいしかいない。その辺の現実を踏まえ県議会も他県と連携協調の中で頑張っている。
- 記者の皆さんも県民の世論を換気するような意味での記事を書いてもらいたい。
- 行財政改革の観点から首都機能移転問題も聖域とならないと考えるが、議員立法で作った法律だから白紙撤回は無いだらうと思う。しかし、かなりの財政負担があるので国民的合意が無いと難しい。
- ゴミ問題をどうするかといったことがパンフレットには何も載っていない。県として、首都機能が移転し始まってから「ゴミ問題はどうするんだ」とゆうことのないようお願いしたい。
- 東京都や立候補していない東京周辺の県などにもPRして、那須地域の良さを知ってもらう必要がある。他県でも同様な運動をしていると思うので、本県も遅れないように配慮して運動を進めてもらいたいと希望する。